



令和7年3月20日発行(第34号)
発行: 松浪地区まちぢから協議会
H P : <https://chigasaki-machiren.org/matunami/>
印刷: (有) 仲手川印刷



会長あいさつ

松浪地区まちぢから協議会 会長 前田 積



皆さんいかがお過ごしでしょうか。
令和7年度の年明けは素晴らしい日の出でした。今年もまちぢから協議会としていろいろな事業が出来るかと初日の出を見ながら思いました。
賀詞交歓会を始め、2月には松浪コミュニティセンター 10周年記念式典に河野太郎衆議院議員・佐藤光市長・両副市长・地元の

県議会議員・市議会議員・行政の部課長さん・地域の学校長・茅ヶ崎市地域集会施設の各会長・松浪地区の方々約100名の皆さんが参加して下さいました。また、カフェでは餅つきを行い、お汁粉とけんちん汁を来館した皆さんに振舞いました。

今後も3月の「春のさくらコンサート」等、さまざまな事業を行い、地元の活性化に繋げて行きたいと思います。
皆さんのご協力をお願い致します。

令和7年松浪地区賀詞交歓会

松浪地区まちぢから協議会 副会長 朝岡 通光

令和7年1月11日(土) 松浪コミュニティセンターで、毎年恒例となっている松浪地区賀詞交歓会が開催されました。茅ヶ崎市役所幹部をはじめ、社会福祉協議会、地域



内小中学校、地域選出市議会議員の方々のご出席を賜り、前田会長の開会の挨拶に続き、ご来賓の佐藤市長、竹内教育長からのご祝辞をいただき、菅野緑が浜小学校長の乾杯によって、和やかにス

タート致しました。各テーブルに分れた塩崎、岸 両副市长をはじめ市役所幹部職員のご挨拶からはじまり、小中学校、自治会、地区団体から活動や報告等が続きました。本日参加の学校長に直接教えを受けた当時の生徒さん? も複数居られ、あちこちに談話の輪が広がり松浪地区に相応しく、年齢世代を超えた総勢72名の楽しく貴重なおしゃべりの2時間でした。



松浪コミセン創立10周年記念式典

松浪地区まちぢから協議会 副会長 朝岡 通光

まちのつながりなかが集まるみんなのコミセン

令和7年2月15日(土) 松浪地区コミュニティセンター創立10周年記念式典を佐藤光市長をはじめとした来賓の方々、松浪コミセンの開設に貢献された方々や、地域の皆様のご参加で総勢96名の方々に祝福され開催されました。

皆様からのご祝辞を頂き、1階の広場で、市民自治推進課の歴代の松浪地区担当の方々や市長をはじめ、地域の皆様とついたお餅をお汁粉やけんちん汁に入れて食しながら、スライドを観てこの10年を振り返りました。

ふれあいのある地域コミュニティの形成に寄与する施設として、松浪コミセンを運用していく為に、今後とも地域及び行政の方々に、ご協力とご支援をお願いしての2時間のイベントになりました。



昨年の元日に発生した能登半島地震は甚大な被害をもたらし、現在も復興が進んでいない状況です。まだ、記憶にも新しく、防災意識が高まっている方も多いのではないのでしょうか。



毎年秋に茅ヶ崎市内各地で行われる防災訓練ですが、松浪地区では2024年11月17日(日)に「まつなみ防災フェア」として、松浪小学校と松浪中学校の2会場で開催しました。まつなみ防災フェアは、地域の方々が気軽に参加できる地域防災イベントを目指し、実行委員会が放水訓練、救命AED訓練、起震車、濃煙避難などの体験型企画を中心に、新たに防災ビンゴを実施するなど、今年も参加者を楽しませてくれました。



炊き出しでは、小学生に人気のカレーをベースにした「カレーすいとん」が好評で、食した参加者に加え、調理を担当した方々も協力して作り上げる、少し変わった鍋に満足そうでした。

松浪中学校では、1年生が地区防災マップを作成しており、今回の防災フェアでも発表の場を設けることができました。有事の際に地域で最も活躍してくれる頼もしい存在になるであろう彼らと、防災関連行事に参画してもらえる仕組みができたことは、将来的な地域の強みにと期待が膨らむばかりです。



質問も多かったことが、印象的でした。

茅ヶ崎市では「備え」をテーマにしており、こうした報告や発表を通じて参加者の皆さんへの防災意識向上に寄与できたのではないのでしょうか。



防災訓練の参加者数は、大きな災害があった後の数年は増加するものの、こうした訓練イベントへの参加者は減少傾向にあります。イベントタイトルや企画内容の工夫で参加者数の回復を目指しており、アンケート調査では初参加と回答した方が約1/4とあって、



嬉しい結果となりました。

最後に、まつなみ防災フェアは松浪地区まちぢから協議会の分会である防災対策部会により実行委員会が立ち上がり、実行委員をはじめとした各団体の協力により実施することができました。参加者の皆様、実行委員をはじめとした地域団体など、多岐にわたりご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

視察研修会

松浪地区まちぢから協議会 書記 佐々木睦子

松浪地区まちぢから協議会は、毎年2月に運営委員会メンバーにより視察研修を実施しております。今年は2月19日に横浜市にある「横浜地方気象台」に行きました。気象台では、県内に気象や地震などに関する観測施設を設置して観測・監視を行っています。

最初に気象台の方から、「風水害と地震の情報について」の講義を受けました。気象庁が発表している特別警報・警報・注意報の役割や基準について、最近の台風の特徴やハザードマップの活用について、地震や津波のメカニズム、神奈川県に影響を及ぼす地震や南海トラフ地震についてなど教えていただきました。みなさん、防災に高い関心を持っているので特に地震について活発な質疑応答がされました。

後半は、施設内にあるいろいろな測量器や関東大震災から100年特別展示を見学しました。屋上からは、お天気も良く富士山や横浜港や山手の街並みがきれいに見えました。大正時代アメリカ軍の病院だった建築当時の様子を残すレトロな洋館風の建物がとても素敵でした。

今回の視察研修では、「気象観測」や「地震」について楽しく学べる施設だったので、とても充実した1日でした。





前号の問題、解けましたでしょうか？年代特定のカギとなるのは、写真店の店先に置かれた宣伝看板の俳優の写真です（下の写真の赤マルのあるところ）。年配の方は気づかれたかと思いますが、映画「王様と私」でアカデミー主演男優賞を受賞。「十戒」・「荒野の七人」などにも出演した映画スターの「ユル・ブリナー」です。そして、この看板があるお店はカメラ店です。フジカラーという大きな看板もあります。彼がフジフィルムのコマーシャルに出ていたのを覚えている方もいられるでしょう。世界初のASA400高感度ネガカラーフィルムという宣伝がテレビや新聞によく出ていました。1976年（昭和51年）頃のことです。ということは、この浜竹通りの写真は、その頃に撮られたものとなります。



さらに、現在もある建物とは左下の「クリーニング」の看板の出ているお店です。その右の写真は同じ建物の現状です。お店はもうやっていません。となりの写真屋さんも、今はありません。このようにかつての商店街は急速に姿を変えています。次回、もう少しわしくまちの移り変わりをみていきたいと思います。

松浪ふれあいネットワーク交流会

茅ヶ崎市社会福祉協議会 加藤 絵里

松浪地区社会福祉協議会・松浪地区まちぢから協議会 共催

2月22日（日）松浪コメンにて恒例の交流会が開催されました。今年は市・市社協から「みんながつながるちがさきの地域福祉プラン～次期計画策定のための意見交換会～」のテーマを持ち込み、グループワークを通してみなさんのご意見をきかせていただきました。



ワーク① 地区で取り組まれている活動をシェアしよう
いま松浪地区にある活動を共有し、知らなかった活動を知り合う機会にもなりました。

ワーク② これからの地区の支え合いに必要なことを考えよう
「これから大事にしたいことは？」「こんなことができたら」等、アイデアや思いを出し合いました。



「今日みたいに知り合うきっかけが大事」「気軽に行ける居場所があったら」など、多くあがったのは人が“つながる”大切さ。顔を合わせ、声をかけ合うつながりから、多様な広がりへ… そのような意見をととても心強く感じた交流会でした。

ご協力ありがとうございました。



「みんながつながるちがさきの地域福祉プラン」は、茅ヶ崎の目指す地域の姿や、そこに向けた活動モデルを示し、住民と行政を含む関係機関等が協力して取り組む計画。5年を期間とし、現計画は令和7年度まで。令和8年度からの次計画に地域のみなさんが大事と思うことを活かすため、今年度はすべての地区で意見交換会を実施しています。

松浪中学校

令和7年度より松浪中学校の基準服がリニューアルします！

今の時代に合った様々な工夫が施された新しいデザインです。松浪中学校の教育目標である「ふれあい 思いやり 正しい行動」をイメージし、「松」の緑を襟章とブレザーのステッチに、「浪（波）」の青をスラックスとスカートのチェックに取り入れました。また生徒・保護者からのアンケートにあった「学ランの黒」をブレザーに、襟章には今までの校章と同じ「松中」の文字を残しました。



生地は伸縮性に優れ、比較的軽くて着心地のよいものになっています。撥水効果があり自宅で洗える通年タイプの素材を使用しています。ブレザーのボタンは右前・左前のどちらにも変更でき、スラックス・スカートも同柄で選べるといった多様性にも配慮されています。

基準服検討委員会が立ち上がって2年、これまでの松浪中学校のイメージを大切にしながらこれからの時代に合うように何度も検討を重ね、この時を迎えることができました。生徒だけではなく、教職員や保護者そして地域の方々にも愛着を持っていただけると嬉しいです。新しい基準服への移行期間は3年間、登下校の景色が少しずつ変わっていくと思いますが、今まで同様暖かい見守りをよろしく願いいたします。

(松浪中学校PTA会長 渡邊真希)



松浪小学校

こんにちは、松浪小PTAです。松浪小学校は児童数1040名を超え、市内で1番大きな小学校です。地域の皆様、いつも子どもたちの安心安全のために見守りありがとうございます。

昨年11月に神奈川県PTA大会が茅ヶ崎文化会館にて行われました。松浪小PTAでは、当日の受付のお手伝いや、看板飾り、フォトスポット制作のお手伝いをさせて頂きました。大会では松浪小学校が「優良PTA」として団体表彰されました。皆様のご協力のおかげです。ありがとうございます！



次年度も学校、子どもたち、地域の架け橋となるよう、微力ではありますがPTA活動をしていけたらと思っています。

(松浪小学校PTA会長 山崎裕子)

緑が浜小学校

緑が浜小学校P.G.T.は「できる人ができる時にできる事を」をモットーに保護者、祖父母、教職員のボランティア制度で成り立っています。本年度は会員により多くの発信情報ツールとして「コドモン」を取り入れ、情報のスピード化、ペーパーレス化を実現、業務効率化やコスト削減、セキュリティ強化などの「スマートP.G.T.」を目指した活動をしてきました。

ボランティア活動の中でも参加人数が多いパパだけの集団「パパポラ」は運動会や夏祭りなどの行事の準備や力仕事を中心に子どもたちの学校生活の縁の下で力持ちとして欠かさない存在です。



また、本年度は特に登下校の見守りに力を入れた「みどりっ子見守り隊」は会員ボランティアとOB祖父母や地域の方々の力強い協力のもと毎朝の子どもたちの安全見守りだけではなく「ながら見守り」という形でより多くの目で子どもたちの安全を守る啓蒙活動もしてきました。子どもたちの沢山の笑顔を絶やさない地域密着型でこれからも活動していきたいと思っています。(緑が浜小学校P.G.T. 村越恭子)



汐見台小学校

わたしたち汐小PTA2024年度スタッフは11名のメンバーで活動をしています。メンバーの中には、フルタイムでお仕事をしている人もいます。それぞれが自分の出来るタイミングで、負担なく出来る事を行っています。

PTA活動をする事で学校行事以外にも、学校へ足を運ぶ回数も増え、学校の普段の様子や担任の先生以外の先生との交流を持ち、認識してもらい学校の一員になれたような気分にもなります。

コロナ禍以降、学校と保護者との間に空いてしまった距離をPTAが架け橋となれるように今後も子どもたちを中心として活動していきたいと思っています。地域の方々にはいつも子どもたちを温かく見守っていただき感謝しております。

(汐見台小学校PTA会長 井上あゆみ)



編集後記

- ★まつなみだより33号から鴨志田先生の「松浪今昔～松浪地区の移り変わり～」が始まりました。これから浜竹通りや桜道通りなど松浪地区の昔と今の町の移り変わりが掲載されていくと思いますので楽しみにしてください。(佐々木)
- ★令和6年度から松浪地区まちから協議会の活動支援をさせていただいています。活発で心温まる地域の取り組みに、感動する場面が多い1年でした。今号も皆様の御尽力によって、地域の様子が伝わる素敵な誌面となりました。(市民自治推進課 城田)